

地球惑星科学科および地球惑星科学専攻におけるパンデミック対応指針

平成 21 年 2 月 1 日

インフルエンザパンデミック（あるいは世界的大流行）は、我々のひとりとして免疫を持たない、ある新しいインフルエンザウイルスの亜型の出現によって起こる。これは、非常に多くの症例と死亡例を伴う、世界中にまたがった幾つかの連続した流行を招く。国際的物流や輸送の増加と都市化現象に伴い、新しいインフルエンザウイルスによる流行は世界中に急速に広がる可能性が高い（WHO インフルエンザパンデミック事前対策計画用チェックリストより抜粋）。現在、WHO による「世界インフルエンザ事前対策計画（WHO global influenza preparedness plan）」における警報フェーズは 3（人-人感染は無いが、または極めて限定されている）であるが、数年内に起こる可能性は高く事前に問題意識を喚起し情報を共有し有事の場合を想定し対応指針を作成する。

地球惑星科学科・地球惑星科学専攻では、WHO、厚生労働省、国立感染症研究所感染症情報センター、ならびに本学当局からの情報をもとに、専攻長、執行部、地惑安全委員長の判断で以下の対策を講じる。

- (1) ホームページ、地惑携帯サイトを通じて学生・職員に周知する。
- (2) 地球惑星科学科・地球惑星科学専攻の全ての授業（学部・大学院）を休講とする。
- (4) 必要に応じ学部・専攻の全学生、職員を帰宅させ自宅待機とする。
- (3) 緊急連絡網を通じて安否確認・情報交換を行う。
- (4) 専攻長の指示により自宅待機解除および通常の大学運営を再開する。

パンデミックに対しては、全ての学生、職員が事前の知識をもつことが非常に重要である。各自が事前の準備（十分な知識と物質的な備え）をもって対応してくれることを強く望む。以上の措置は、特に緊急性が問われる場合に地球惑星科学科・地球惑星科学専攻が自主的に行うものであり、大学が先行して指示を出す場合は、それに従う。

本対応指針は、平成 21 年 2 月 1 日より施行する。

地球惑星科学専攻安全室